D10900400400 インターロッキング布設替(再使用 施工規模100m2未満) 再使用 施工規模100㎡未満

1 適用範囲

インターロッキングの布設替に適用する。

- 昼間単価
- 既設ブロック再使用
- ブロック撤去費
- ブロック設置費
- ・ブロック材料費(ロス分)
- 敷材料(砂·不織布)
- 敷手間

2 施工歩掛

(1 m²当り)

名 称 規 格 コード 単位 直線配置 6cm 直線配置 8cm 曲線配置 6cm 夜間補正なし・時間制約なし WB m² 100 - -	曲線配置
6cm 8cm 6cm	8cm
夜間補正なし・時間制約なし WB 2 100	
	_
100㎡未満·直線6cm 00001 III 100	
で関補正なし・時間制約なし WB m ² - 100 -	
インターロッキング ブロック撤去 100 ㎡未満・直線8cm 00002 m² - 100 -	_
(再設置) で間補正なし・時間制約なし WB m ² 100	
(円以巨) 100㎡未満・曲線6cm 00003 III - 100	
夜間補正なし・時間制約なし WB m ²	100
100㎡未満·曲線8cm 00004 III — — — — — — — — — — — — — — — — —	100
不 織 布 引張強度98N/5cm以上級 Z116005004 m ² 105 105 105	105
	100
諸 雑 費 式 1	
100㎡当り	
1 m²当り	
(00001) (00002) (00003)	(00004)

備考1 土木工事標準積算基準書 N-2-②インターロッキングブロック工による。

備考2 砂使用量=100㎡×0.03m(厚さ)×(1+K)、砂の割増K=0.29

備考3 不織布面積=1000㎡× (1+K) 、シートの割増K=0.05

D10900400400 インターロッキング布設替(再使用 施工規模100m2未満) 再使用 施工規模100㎡未満

1 適用範囲

インターロッキングの布設替に適用する。

- 既設ブロック再使用
- ブロック撤去費
- ブロック設置費
- ・ ブロック材料費(ロス分)
- 敷材料(砂•不織布)
- 敷手間

2 施工歩掛

(1 m²当り)

					(00001)	(00002)	(00003)	(00004)
1 m²当り								
100㎡当り								
	討	針 費		式	1			
不織	布	引張強度98N/5cm以上級 インター用	Z116005004	m²	105	105	105	105
200000000000000000000000000000000000000		夜間補正なし・時間制約なし 100㎡未満・曲線8cm	WB 00004	m²	_	-	_	100
インターロッキング ブロック撤去 (再設置)		夜間補正なし・時間制約なし 100㎡未満・曲線6cm	WB 00003	m²	-	_	100	-
		夜間補正なし・時間制約なし 100㎡未満・直線8cm	WB 00002	m²	-	100	_	-
		夜間補正なし・時間制約なし 100㎡未満・直線6cm	WB 00001	m²	100	-	_	-
名 科	ŗ	規格	コード	単位	直線配置 6cm	直線配置 8cm	曲線配置 6cm	曲線配置 8cm
					古伯斯里	古伯斯里	出位訂里	出位訂單

備考1 土木工事標準積算基準書 N-2-②インターロッキングブロック工による。

備考2 砂使用量=100㎡×0.03m(厚さ) × (1+K) 、砂の割増K=0.29

備考3 不織布面積=1000㎡× (1+K) 、シートの割増K=0.05

条件に夜間を追加

D10901301900 消火栓塗膜除去用養生施設設置工

1 滴用節用

・塗膜に鉛を含む場合の養生施設の設置撤去に適用する。

2 施工歩掛

(1基あたり)

3	名	称	規 格	コード	単位	養生施設&保護具
塗	装	エ			人	0.20
諸	雑	費	養生施設・保護具等 労務費の40%+まるめ		式	1.00
	1基当	ŋ				(00001)

備考1 上記は、環境対応型剥離剤による湿潤状態での塗膜はく離(旧塗膜全体)及び回収に関する費用である。

備考2 2014年厚労省通達:「鉛等有害物を含む旧塗膜の除去に関する暴露防止対策」 に基づく対応

備考3 上記費用は、共通仮設費の安全費として計上すること

備考4 上記には、塗膜除去用養生施設の:設置・撤去費用及び諸材料 (ポリエチレンシート、ブルーシート、布テープ等)を含む

備考5 諸雑費率には、鉛含有塗膜除去用安全保護具の費用として、塗装用シューズカバー・耐油手袋・保護メガネ等を含んでいる。

備考6 剥離作業想定回数に併せて、1基当たりの設置回数を、2.5回分想定している。

新規登録単価表

項目	規格	単位	単 価	Zコード
消火栓用塗料(下塗)	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料	kg		Z787030001
消火栓用塗料(中塗)	弱溶剤形ポリウレタン樹脂塗料 黄・ オレンジ	kg		Z787030002
消火栓用塗料(上塗本体)	弱溶剤形ポリウレタン樹脂塗料 黄・ オレンジ	kg		Z787030003
消火栓用塗料(上塗文字)	弱溶剤形ポリウレタン樹脂塗料 赤系	kg		Z787030004
塗膜剥離剤	水系(エマルジョン系)	kg		Z787030005
溶出液作成		検体		Z787030006
鉛溶出試験		検体		Z787030007
六価クロム溶出試験		検体		Z787030008
PCB含有量試験		検体		Z787030009
塗料くず処理費	協業組合公清企業 (鉛溶出基準値以下)	kg	水道工事単価	Z787030010
塗料くず処理費 (循環資源利用促進税相当額)	協業組合公清企業 (鉛溶出基準値以下)	kg	表による	Z787030011
塗料くず処理費	(株) 協和環境サービス 鉛溶出基準値以下)	kg		Z787030012
塗料くず処理費 (循環資源利用促進税相当額)	(株) 協和環境サービス 鉛溶出基準値以下)	kg		Z787030013
塗料くず処理費	(株)道央油設処理公社 (鉛溶出基準値以下)	kg		Z787030014
塗料くず処理費 (循環資源利用促進税相当額)	(株) 道央油設処理公社 (鉛溶出基準値以下)	kg		Z787030015
塗料くず処理費	早来工営(株)札幌工場(石狩) 処分量100~300kg (鉛溶出基準値以上) 剥離剤、養生シート含む	kg		Z787030016
塗料くず処理費 (循環資源利用促進税相当額)	早来工営(株)札幌工場(石狩) 処分量100~301kg (鉛溶出基準値以上) 剥離剤、養生シート含む	kg		Z787030017

D10901301900 消火栓塗膜除去用養生施設設置工

1 適用範囲

・塗膜に鉛を含む場合の養生施設の設置撤去に適用する。

2 施工歩掛

(1基あたり)

	名	称	規格	コード	単位	養生施設&保護具
塗	装	I.			人	0.20
諸	雑	費	養生施設・保護具等 労務費の40%+まるめ		式	1.00
	1基当	i b				(00001)

備考1 上記は、環境対応型剥離剤による湿潤状態での塗膜はく離(旧塗膜全体)及び回収に関する費用である。

備考2 2014年厚労省通達:「鉛等有害物を含む旧塗膜の除去に関する暴露防止対策」 に基づく対応

備考3 上記費用は、共通仮設費の安全費として計上すること

備考4 上記には、塗膜除去用養生施設の:設置・撤去費用及び諸材料 (ポリエチレンシート、ブルーシート、布テープ等)を含む

備考5 諸雑費率には、鉛含有塗膜除去用安全保護具の費用として、塗装用シューズカバー・耐油手袋・保護メガネ等を含んでいる。

備考6 剥離作業想定回数に併せて、1基当たりの設置回数を、2.5回分想定している。

新規登録単価表

<u> </u>						
項目	規格	単位	単 価	Zコード		
消火栓用塗料(下塗)	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料	kg				Z787030001
消火栓用塗料(中塗)	弱溶剤形ポリウレタン樹脂塗料 黄・ オレンジ	kg		Z787030002		
消火栓用塗料(上塗本体)	弱溶剤形ポリウレタン樹脂塗料 黄・ オレンジ	kg		Z787030003		
消火栓用塗料(上塗文字)	弱溶剤形ポリウレタン樹脂塗料 赤系	kg		Z787030004		
塗膜剥離剤	水系(エマルジョン系)	k g		Z787030005		
溶出液作成		検体		Z787030006		
鉛溶出試験		検体	水道工事単価 表による		Z787030007	
六価クロム溶出試験		検体		Z787030008		
塗料くず処理費	協業組合公清企業 (鉛溶出基準値以下)	kg		Z787030010		
塗料くず処理費 (循環資源利用促進税相当額)	協業組合公清企業 (鉛溶出基準値以下)	kg		Z787030011		
塗料くず処理費	(株) 協和環境サービス 鉛溶出基準値以下)	kg		Z787030012		
塗料くず処理費 (循環資源利用促進税相当額)	(株) 協和環境サービス 鉛溶出基準値以下)	kg		Z787030013		
塗料くず処理費	(株)道央油設処理公社 (鉛溶出基準値以下)	kg		Z787030014		
塗料くず処理費 (循環資源利用促進税相当額)	(株) 道央油設処理公社 (鉛溶出基準値以下)	kg		Z787030015		
塗料くず処理費	早来工営(株)札幌工場(石狩) 処分量100~300kg (鉛溶出基準値以上) 剥離剤、養生シート含む	kg		Z787030016		
塗料くず処理費 (循環資源利用促進税相当額)	早来工営(株)札幌工場(石狩) 処分量100~301kg (鉛溶出基準値以上) 剥離剤、養生シート含む	kg		Z787030017		

削除

新旧比較表 (公表用)

D10902200100 鉄蓋据付工 1 適用範囲

水道用鉄蓋の設置に適用する。

諸雑費

1箇所当り

- 施工費
- 材料費

2 施工歩掛

حو ـ ـ الله ـ ع

名 称 単位 φ 700 φ 1200 (親子蓋) φ 1500 (親子蓋) 水道用円形鉄蓋材料費 D10902200200 組 1.00 00001 材 料 費 水道用円形鉄蓋材料費 組 1.00 φ1200(親子蓋) 00002 水道用円形鉄蓋材料費 組 1.00 φ 1500(親子蓋) 00003 無 収 縮下水鉄蓋調整用 D1090220050 0.013 0.032 0.044 m3 モルタルエ 00001 蓋金物取付工 水道用鉄蓋 個 1.50 1.50 1.50 00001

(00001)

(00002)

式

現行

右胆

夜間							
名 称	規格	コード	単位	- ф 700	♦ 1200 (親子蓋)	φ 1500 (親子蓋)	
	水道用円形鉄蓋材料費 φ700			1.00	_	_	
材料 费	水道用円形鉄蓋材料費 ♦1200(親子蓋)	00002	組	-	1.00	_	
	水道用円形鉄蓋材料費 φ 1500 (親子蓋)	00003	組	-	_	1.00	
無 収 縮 モルタルエ	下水鉄蓋調整用	D10902200500 00001	m3	0.013	0.032	0.011	
蓋金物取付工 (夜間)	水道用鉄蓋	D10902200600 00001	個	1.50	1.50	1.50	
					<u>+</u>		
000000000000000000000000000000000000000	1箇所当り	000000000000000000000000000000000000000		(00001)	(00002)	(00003)	

備考1 平成12年 新型水道弁室用鉄蓋施工説明会資料 図面集(組立図・鉄蓋図)による。

備考2 無収縮モルタルは鉄蓋調整部に使用する。

〔使用量:調整部高さ5cmを目安として算出〕

φ700-調整部体積12825cm3

φ 1200-調整部体積31792cm3

φ 1500 - 調整部体積44570cm3

- 備考3 アダプター(レジンコンクリート)の据付手間として蓋金物取付工に0.5を加算計上する。
- 備考4 トラッククレーン賃料の夜間割増しについては、積算システムの細別条件で、トラッククレーン賃料「標準(夜)」または、「標準以外」を選択し、さらに労務費の夜間補正を行うこと。また、積算システムのトラッククレーン賃料「標準(夜)」は作業時間21時から翌朝6時までを想定しており、作業時間が異なる場合は「標準以外」により算定すること。
- ※ 標準(夜): 1+割増率0.3×夜間作業時間6H/総作業時間8H=1.225(札幌市請負工事積算基準 機械工参照)
- 備考5 撤去は設置の60%とする。(厚労省準拠)

D10902200100 鉄蓋据付工

1 適用範囲

水道用鉄蓋の設置に適用する。

- 施工費
- 材料費

2 施工歩掛

(1箇所当り)

(00003)

(1箇所当り)

						(1日//1日 //
名 称	規格	コード	単位	φ 700	φ 1200 (親子蓋)	φ 1500(親子蓋)
	水道用円形鉄蓋材料費 φ700	D10902200200 00001	組	1.00	<u> </u>	_
材 料 費	水道用円形鉄蓋材料費 φ1200(親子蓋) 0000		組	_	1.00	_
	水道用円形鉄蓋材料費 φ1500(親子蓋)	00003	組	_	_	1.00
無 収 縮 モルタルエ	下水鉄蓋調整用	D10902200500 00001	m3	0.013	0.032	0.044
蓋金物取付工	水道用鉄蓋	D10902200600 00001	個	1.50	1.50	1.50
諸 雑 費 式				1		
	1箇所当り			(00001)	(00002)	(00003)

改訂後

備考1 平成12年 新型水道弁室用鉄蓋施工説明会資料 図面集(組立図・鉄蓋図)による。

備考2 無収縮モルタルは鉄蓋調整部に使用する。

〔使用量:調整部高さ5cmを目安として算出〕

- φ 700-調整部体積12825cm3
- φ 1200-調整部体積31792cm3
- φ 1500-調整部体積44570cm3

備考3 アダプター(レジンコンクリート)の据付手間として蓋金物取付工に0.5を加算計上する。

備考4 トラッククレーン賃料の夜間割増しについては、積算システムの細別条件で、トラッククレーン賃料「標準(夜)」または、「標準以外」を選択し、さらに労務費の夜間補正を行うこと。また、積算システムのトラッククレーン賃料「標準(夜)」は作業時間21時から翌朝6時までを想定しており、作業時間が異なる場合は「標準以外」により算定すること。

※ 標準(夜): 1+割増率0.3×夜間作業時間6H/総作業時間8H=1.225(札幌市請負工事積算基準機械工参照)

備考5 撤去は設置の60%とする。(厚労省準拠)

※記載内容の整理 積算への影響はありません

備者

夜間の表を削除 ※夜間の積算、施行は従来 通り

D10902200600 蓋金物取付工 (トラッククレーン賃料:標準(昼)・標準(夜)・標準以外)

1 適用範囲

水道用鉄蓋の設置に適用する。

施工費

2 施工歩掛

尽問

(1個当り)

<u></u> <u> </u>				(11017)		
名 称	規格	コード	単位	水道用鉄蓋		
土木世話役			人	0.08		
特殊作業員			人	0.08		
普通作業員			人	0.16		
諸雑費	労務費の5%		式	1.00		
トラッククレーン	油圧伸縮ジブ型	L001120001	日	0.08		
賃 料	- 4.8~4.9t吊		Н	0.00		
	諸雑費	式	1			
	1個当り					

夜間

杈间				
名称	規格		単位	水道用鉄蓋
圭本世話役			⅄	0.08
特殊作業員				0.08
普通作業員			⅄	0.16
諸雑費	労務費の5%		类	1.00
トラッククレーン 賃料(夜開)	油圧伸縮ジン型 4.8~4.9t吊	L001120001	₽	0.08
	諸雑費		类	1
	1個当り			
				(00001)

備考1 国交省下水道用設計標準歩掛表(A-2-4 表-17-10)参照。

備考2 標準(夜): 1+割増率0.3×夜間作業時間6H/総作業時間8H=1.225

D10902200600 蓋金物取付工 (トラッククレーン賃料:標準(昼)・標準(夜)・標準以外)

1 適用範囲

水道用鉄蓋の設置に適用する。

施工費

2 施工歩掛

(1個当り)

名 称	規格	コード	単位	水道用鉄蓋		
土木世話役			人	0.08		
特殊作業員			人	0.08		
普通作業員			人	0.16		
諸雑費	労務費の5%		式	1.00		
トラッククレーン	油圧伸縮シブ型	L001120001	日	0.08		
賃 料	4.8~4.9t吊		Н	0.06		
	諸雑費 式					
				(00001)		

備考1 国交省下水道用設計標準歩掛表第1巻管路、管路施設(開削工法)A-2マンホール工、表-17-10に準拠

備考2 標準(夜): 1+割増率0.3×夜間作業時間6H/総作業時間8H=1.225

※記載内容の整理 積算への影響はありません

夜間の表を削除 ※夜間の積算、施行は従来 通り

備考1を整理

D10902201300 人孔継足管取付工

(トラック又はラフテレーンクレーン賃料:標準(昼)・標準(夜)・標準以外)

1 適用範囲

弁室人孔部に適用する。

- 施工費
- 材料費

2 施工歩掛

尽問 (1m当り)

<u> </u>					(1111=1))
名称	規格	コード	単位	D=800	D=1200
土木世話役			人	0.41	0.49
特殊作業員			人	0.82	0.98
普通作業員			人	1.23	1.47
材料費	遠心力鉄筋コンクリート管 外圧1種B型 φ800	Z118004045	m	10.00	_
村 作作	遠心力鉄筋コンクリート管 外圧1種B型 φ1200	Z118004049	m	_	10.00
	ルーン機能付 2.9t 吊 山積0.45 m³ 1次	WJ	時	2.67	_
	油圧伸縮ジブ型 25t吊	L001130006	日	_	0.49
諸雑費(労	が務費の1%+まるめ)	式]	l	
	10m当り				
	1m当り	(00001)	(00002)		

夜間

名 称	規格	⊐– ⊧	単位	D=800	D=1200
圭本世話役			⅄	0.41	0.49
特殊作業員				0.82	0.98
普通作業員			人	1.23	1.47
++ 本 華	遠心力鉄筋コンクリート管 外圧1種B型 - φ 800	Z118004045	m	10.00	_
材 料 費	遠心力鉄筋スクリート管 外圧1種B型 - φ 1200	Z118004049	m	-	10.00
	外一〉機能付 2.9t 吊 山積0.45 ㎡ 1次	₩J	時	2.67	<u>—</u>
ラフラレーンクレーン 賃料(夜間)	油圧伸縮ジブ型 25t吊	L001130006	₽	_	0.49
諸雑費(労	務費の1%+まるめ)		式	4	
	10m当り				
	1m当り			(00001)	(00002)

備考1 国交省下水道用設計標準歩掛表(A-1-15 表-4-2)を参照し、独自基準とした。

備考2 バックホウ規格は実務必携管路施工機械運転表による。

備考3 諸雑費は、チェーンブロック、レバーブロック、コンクリートカッター運転、鉄筋コンクリート管損失分の費用及び損料等の経費を含む。

備考4 標準(夜): 1+割増率0.3×夜間作業時間6H/総作業時間8H=1.225

D10902201300 人孔継足管取付工

(トラック又はラフテレーンクレーン賃料:標準(昼)・標準(夜)・標準以外)

1 適用範囲

弁室人孔部に適用する。

- 施工費
- 材料費

2 施工歩掛

(1m当り)

名 称	規格	コード	単位	D=800	D=1200					
土木世話役			人	0.41	0.49					
特殊作業員			人	0.82	0.98					
普通作業員			人	1.23	1.47					
++*/	遠心力鉄筋コンクリート管 外圧1種B型 φ800	Z118004045	m	10.00	_					
材料費	遠心力鉄筋コンクリート管 外圧1種B型 φ1200	Z118004049	m	_	10.00					
	ルーン機能付 2.9t 吊 山積0.45㎡ 1次	WJ	時	2.67	_					
	油圧伸縮シブ型 25t吊	L001130006	目	_	0.49					
諸雑費(労	務費の1%+まるめ)		式	1						
	10m当り									
	1m当り (00001) (00002)									

備考1 国交省下水道用設計標準歩掛表第1巻管路、管路施設(開削工法)C-4鉄筋コンクリート管、表-4-2に準拠

備考2 バックホウ規格は実務必携 管路施工機械運転表による。

備考3 諸雑費は、チェーンブロック、レバーブロック、コンクリートカッター運転、鉄筋コンクリート管損失分の費用及び損料等の経費を含む。

備考4 標準(夜): 1+割増率0.3×夜間作業時間6H/総作業時間8H=1.225

※記載内容の整理 積算への影響はありません

夜間の表を削除 ※夜間の積算、施行は従来 通り

備考1を整理

現行 改訂後 備考

D10902201400 頂版据付工

(トラック又はラフテレーンクレーン賃料:標準(昼)・標準(夜)・標準以外)

1 適用範囲

弁室人孔部に適用する。

施工費

2 施工歩掛

尽問 (1個当り)

生 町						(11111111111111111111111111111111111111	
				空気弁室	排水弁室	排水弁室	
名 称	規格	コード	単位	φ 500~1500	φ 500~900	φ 1000~1500	
				D=900	D=450	D=500	
土木世話役			人	0.43	0.34	0.35	
特殊作業員			人	0.86	0.68	0.70	
普通作業員			人	1.29	0.68	0.70	
バックホウ	クレーン機能付 2.9t 吊	WJ	時		2.21	2.28	
運転費(夜間)	山積0.45㎡ 1次		144	_	2.21	2.20	
ラフテレーンクレーン	油圧伸縮シフ型	L001130006	н	0.40			
賃 料	25t吊		日	0.43	_	_	
諸雑費(労	務費の1%+まるめ)		式	1			
	10個当り	0	a				
	1個当り						
				(00001)	(00002)	(00003)	

1657	
$\overline{}$	HJ.

仪前						
名	規 格	7-	単位	空気弁室 φ 500~1500	排水弁室 + 500~900	排水弁室 φ 1000~1500
				D=900	D=450	D=500
生本世話役			人	0.43	0.34	0.35
特殊作業員			人	0.86	0.68	0.70
普通作業員			人	1.29	0.68	0.70
	小→〉機能付 2.9t 吊 山積0.45㎡ 1次	₩J	時	_	2.21	2.28
賃料(夜開)	油圧伸縮シブ型 25t吊	L001130006	#	0.43	<u>—</u>	<u>—</u>
諸雑費(労	務費の1%+まるめ)		式		1	500000000000000000000000000000000000000
	10個当9					
	1個当り					
				(00001)	(00002)	(00003)

備考1 国交省下水道用設計標準歩掛表(A-1-15 表-4-2)を参照し、独自基準とした。

備考2 バックホウ規格は実務必携管路施工機械運転表による。

備考3 頂版重量は、D-900・D-450・D-500のm当り重量相当とする。

- 空気弁室 + 500~1500:D=900

-排水弁室 ◆ 500~900:D=450

-排水弁室 ♦ 1000~1500:D=500

備考4 頂版スラブの材料費は別途計上すること。

備考5 標準(夜): 1+割増率0.3×夜間作業時間6H/総作業時間8H=1.225

D10902201400 頂版据付工

(トラック又はラフテレーンクレーン賃料:標準(昼)・標準(夜)・標準以外)

1 適用範囲

弁室人孔部に適用する。

施工費

2 施工歩掛

(1個当り)

						(1個当り)
	***************************************			空気弁室	排水弁室	排水弁室
名 称	規格	コード	単位	φ 500~1500	φ 500~900	φ 1000~1500
					90	
土木世記	5 役		人	0.43	0.34	0.35
特殊作業	美 員		人	0.86	0.68	0.70
普通作業	美 員		人	1.29	0.68	0.70
バックホウ	クレーン機能付 2.9t 吊	WJ	時		2.21	2.28
運転費(夜	[間] 山積0.45㎡ 1次		叶		2.21	2.20
ラフテレーンクレ	ーン 油圧伸縮シフ型	L001130006	日	0.43		
賃	料 25t吊		П	0.45		_
諸雑習	貴(労務費の1%+まるめ)		式		1	
	10個当り					
	1個当り					
				(00001)	(00002)	(00003)

備考1 国交省下水道用設計標準歩掛表第1巻管路、管路施設(開削工法)C-4鉄筋コンクリート管、表-4-2に準拠

備考2 バックホウ規格は実務必携 管路施工機械運転表による。

備考3 下記適用表のとおりの相当とする。

70 日記色/日本(ランス) 日当に 7 名。				
水道管口径	国交省下水道用設計標準歩掛表			
空気弁室(水道管) φ 500~1500	D=900			
排水弁室(水道管) φ 500~900	D=450			
排水弁室(水道管) φ 1000~1500	D=500			

備考4 頂版スラブの材料費は別途計上すること。

備考5 標準(夜): 1+割増率0.3×夜間作業時間6H/総作業時間8H=1.225

夜間の表を削除 ※夜間の積算、施行は従来

積算への影響はありません

※記載内容の整理

備考1、3を整理

現行 改訂後 備考

D10902201500 直立管据付工

(ラフテレ-ンクレ-ン賃料:標準(昼)・標準(夜)・標準以外)

1 適用範囲

弁室人孔部に適用する。

- 施工費
- 材料費

2 施工歩掛

ມເຊ	ㅗ	ツ	1

昼間								(Im当り)
	www		000000	空気弁室	空気弁室	空気弁室	排水弁室	排水弁室
名	称 規格	コード	単位	φ 500~900	φ 1100~1200	φ 1350~1500	φ 500~900	φ 1000~1500
				D=1500	D=1650	D=1800	D=1100	D=1200
土木世	話役		人	0.57	0.61	0.66	0.47	0.49
特殊作	業員		人	1.14	1.22	1.32	0.94	0.98
普通作	業員		人	1.71	1.83	1.98	1.41	1.47
ラフテレーン	クレーン 油圧伸縮ジブ型	L001130006	B	0.57	0.61	0.66	0.47	0.49
賃	料 25t吊		l H	0.57	0.01	0.00	0.47	0.49
諸	維費(労務費の1%+まるめ)		式			1		
	10m当り					-		
	1m当り							
				(00001)	(00002)	(00003)	(00004)	(00005)

夜間								
				空気弁室	空気弁室	空気弁室	排水弁室	排水弁室
名 称	規格	ユード	単位	 	♦ 1100~1200	-∳ 1350~1500	φ 500∼900	
				D=1500	D=1650	D=1800	D=1100	D=1200
生 本 世 話 役			人	0.57	0.61	0.66	0.47	0.49
特殊作業員			人	1.14	1.22	1.32	0.94	0.98
普通作業員			人	1.71	1.83	1.98	1.41	1.47
1	油圧伸縮ジブ型 25t吊	L001130006	₽	0.57	0.61	0.66	0.47	0.49
諸雑費(労	務費の1%+まるめ)		式		8	1		3
	10m当り							
	1m当り							
				(00001)	(00002)	(00003)	(00004)	(00005)

備考1 国交省下水道用設計標準歩掛表(A-1-15 表-4-2)を参照

備考2 直立管重量は、次のm当り重量相当とする。

- 空気弁室 φ 500~900:D=1500
- 空気弁室 ♦ 1100~1200:D=1650
- <u>- 空気弁室 ♦ 1350~1500:D=1800</u>
- -排水弁室 ♦ 500~900:D=1100
- 排水弁室 ♦ 1000~1500: D=1200
- 備考3 直立管の材料費は別途計上すること。
- 備考4 標準(夜): 1+割増率0.3×夜間作業時間6H/総作業時間8H=1.225

D10902201500 直立管据付工

(ラフテレーンクレーン賃料:標準(昼)・標準(夜)・標準以外)

1 適用範囲

弁室人孔部に適用する。

- 施工費
- 材料費

2 施工歩掛

(1m当り)

							(1111=197)
M00000			空気弁室	空気弁室	空気弁室	排水弁室	排水弁室
名 称 規格	コード	単位	φ 500~900	φ 1100~1200	φ 1350~1500	φ 500~900	φ 1000~1500
0000							
土木世話役		人	0.57	0.61	0.66	0.47	0.49
特殊作業員		人	1.14	1.22	1.32	0.94	0.98
普通作業員		人	1.71	1.83	1.98	1.41	1.47
ラフテレーンケレーン 油圧伸縮シブ型	L001130006	В	0.57	0.61	0.66	0.47	0.49
賃 料 25t吊			0.07	0.01	0.00	0.47	0.49
諸雑費(労務費の1%+まるめ)		式			1		
10m当り							
1m当り							
			(00001)	(00002)	(00003)	(00004)	(00005)

備考1 国交省下水道用設計標準歩掛表第1巻管路、管路施設(開削工法)C-4鉄筋コンクリート管、表-4-2に準拠

備考2 下記適用表のとおりの相当とする。

- 2	「記憶用衣がたわがが自当とする。	
	水道管口径	国交省下水道用設計標準歩掛表
	空気弁室(水道管) ø 500~900	D=1500
	空気弁室(水道管) φ 1100~1200	D=1650
	空気弁室(水道管) φ 1350~1500	D=1800
	排水弁室(水道管) ø 500~900	D=1100
	排水弁室(水道管) φ 1000~1500	D=1200

備考3 直立管の材料費は別途計上すること。

備考4 標準(夜): 1+割増率0.3×夜間作業時間6H/総作業時間8H=1.225

※記載内容の整理 積算への影響はありません

夜間の表を削除 ※夜間の積算、施行は従来

備考1、2を整理